

スタンダード口腔病態病理学

編著 賀来 亨 槻木恵一
 著 青葉孝昭 宇都宮忠彦 岡田裕之 川上敏行
 窪田展久 佐藤かおり 猿田樹理 田谷雄二
 長谷川博雅 前田初彦 三田村治郎 山本浩嗣

B5変型判 カラー 298頁 定価 9,030円(本体8,600円+税)
 ISBN978-4-7624-0669-0

『歯科医学教授要綱』および平成22年版『歯科医師国家試験出題基準』に準拠し、病理形態学から臨床医学の病気の診断、治療に応用できるように、疾病の機序を具体的に示した。

歯学部学生の教科書はもとより、臨床家の参考書として活用できるように、新知見を加え、わかりやすく解説した。



- | | | |
|----------------------|---------------------|------------------------|
| 1章 口腔・頭蓋・顎顔面領域の発育異常 | 7章 辺縁部歯周組織の病変 | 14章 口腔粘膜および口腔軟組織の腫瘍 |
| 2章 歯の病変 | 8章 顎および顎関節の非腫瘍性疾病 | 15章 唾液腺疾患 |
| 3章 齲蝕 | 9章 口腔疾患の治療に伴う病理学的変化 | 16章 口腔顎顔面領域に症状を現す全身性疾患 |
| 4章 象牙質とセメント質の増生および吸収 | 10章 口腔粘膜の疾患 | 17章 口腔の加齢変化 |
| 5章 歯髄の病変 | 11章 顎顔面領域の嚢胞 | 18章 口腔の病理診断 |
| 6章 根尖部歯周組織の病変 | 12章 歯原性腫瘍 | |
| | 13章 非歯原性腫瘍および腫瘍様病変 | |

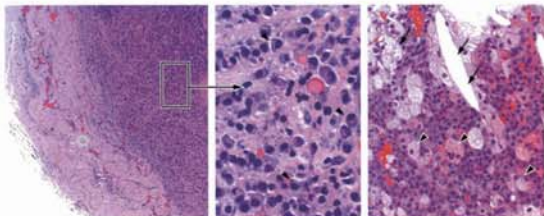


図6-13 歯根肉芽腫
 a:一般的に、歯根肉芽腫は中心部が幼若な肉芽組織で、周囲に向かって線維化傾向(①)がある。
 b:その中心部には形質細胞(矢印)を中心とした慢性炎症性細胞浸潤が顕著である。
 c:登例によっては、膿球を処理した泡沫細胞(矢印)やコレステリン(矢印)の析出もみられる。

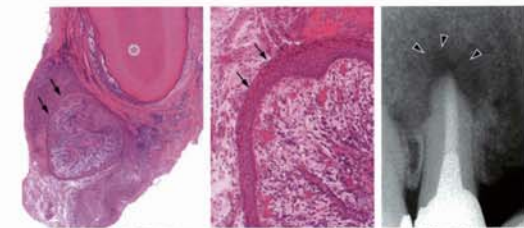


図6-14 歯根肉芽腫
 a:歯根(①)の尖端部に病巣がみられ、しばしば上皮(矢印)が増殖している。
 b:上皮の増殖(矢印)と、その内側には幼若な肉芽組織がみられる。
 c:根先端にやや境界不明瞭なエックス線透過性の病変(矢印)がみられる。

(1) 歯根肉芽腫
 自覚症状はほとんどない。病変周囲の修復反応を反映して、エックス線像では一般に慢性歯槽膿瘍よりもやや境界が明らかな透過性病変として観察できるようになる(図6-14-c)。
【病理組織所見】
 ・歯根肉芽腫は根尖部に肉芽組織が増殖する慢性炎症巣で、多くの場合、構造は内外2層に分けられる(図6-11-a)。
 ・中心部では毛細血管や線維芽細胞などが増殖し、おもにリンパ球や形質細胞などの炎症性細胞浸潤に富む幼若な肉芽組織(図6-11-b)で、外層に向かって線維化し、



図7-3 正常歯肉と歯肉炎
 a:正常歯肉
 b:歯肉炎
 正常歯肉ではスティッピングがみられるが、歯肉炎ではスティッピングが消失し、歯肉縁が発赤する。

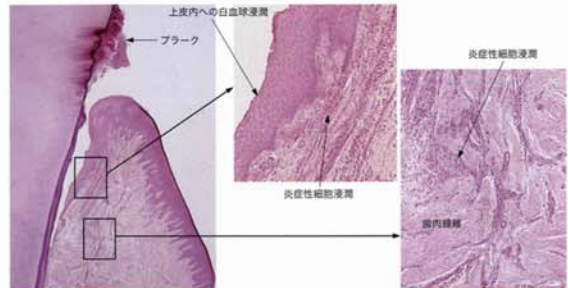


図7-4 歯肉炎の病理組織像
 歯肉炎上皮直下の結合組織に、血管拡張と充血および血管周囲のリンパ球や形質細胞の高度な浸潤を伴う慢性炎症がみられる。上皮細胞間隙は拡張し、その中に好中球の遊走がみられる。

非プラーク性歯肉炎
 non-plaque-induced gingivitis
 ウイルス感染
 viral infections
 単純疱疹ウイルス
 herpes simplex virus (HSV)
 帯状疱疹ウイルス
 varicella-zoster virus (VZV)
 b 非プラーク性歯肉炎
 プラークの細菌以外の感染による歯肉病変である。粘膜皮膚病変、アレルギー性反応および外傷性歯肉病変に分類される。
 (1) プラーク細菌以外の感染による歯肉病変
 リスクファクターにより特徴的な臨床像と組織像を示す。鑑別診断には臨床症状と合わせて細菌培養検査や病理組織検査が重要となる。この病変はプラーク除去では改善されない。
■ウイルス感染
 単純疱疹ウイルス(HSV)と帯状疱疹ウイルス(VZV)が頻度が高い。両者ともに水疱形成をみる。HSVの初感染病変は急性疱疹性歯肉内炎として現れ、6か月から6歳